



東道河 第86号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 様

東近江市長 中村 功



「中期的な計画の作成にあたって」の東近江市の道路整備について

東近江市は、二度の合併を経て面積が383.36km²、人口が11万8千人の滋賀県下でも有数の大きなまちとなりました。県の南東部に位置し、鈴鹿山系に源を発する愛知川が中央部をゆったりと流れ、この水の恵みを受けた豊かな穀倉地帯が流域に広がり、周囲はなだらかな丘陵に取り囲まれた緑豊かなまちです。

古来から、中仙道や御代参街道、八風街道、千草街道など、主要な街道が交差する交通の要衝地として栄え、現在では名神高速道路や国道8号、307号、421号、477号を中心に、主要地方道や一般県道、あるいは幹線市道がこれらに連絡する形でネットワークを形成しています。

しかし、市内の主要幹線道路は、企業の進出に伴う交通量の増加や大型車両の通行などにより、市街地での交通渋滞が目立ってきています。また、合併により、旧市町間を結ぶアクセスの改善が課題となり、より広域的な視点に立った幹線道路の整備が必要となっています。

一方、長年の悲願でありました国道421号の滋賀・三重両県の県境部における石樽峠のトンネル工事が、平成18年度から国の直轄事業として着手され、順調に工事が進められているところです。このトンネルが開通しますと年間を通じた通行が可能となり、地域間交流が促進され、産業と経済の振興、文化交流、観光振興などによる地域活性化が図れるものと大きな期待を寄せるものであります。

地方にとっての交通手段は自動車での移動が大半を占めており、地域経済の発展と安全で安心できる市民生活の確保には、渋滞の解消や交通安全対策、緊急自動車が円滑に進入できる道づくり、バリアフリー化による歩行エリアの確保など、生活に密着した道路整備の着実な推進は喫緊の重要課題です。また、国道8号や307号のバイパス並びに名神名阪連絡道路の整備計画については、将来の市民生活や地域の振興に大きく関わるものであり、早期の実現を期待するものです。

東近江市では、平成19年度に地域住民や道路利用者の代表者に参画していただき、将来の道づくりの指針を策定し、市民の交通需要に適応した地域の骨格となる道路整備を進めていきたいと考えています。

今後の道路整備にあたっては、事業の効率性を高める一方で、都市基盤整備の形成としての視点だけではなく、周辺の景観や環境への十分な配慮を行うとともに、防災対策や危機管理体制を充実させ、経済の活性化、市民生活の一層の向上を目指して取り組んでいきたいと考えています。